

「おかげで、牧草地が広くなったし、いろいろと便利になりました！」 「じゃあ、次は何が必要なの？」（西北地域県民局の巻 その41）

さて、ここは、つがる市にある市営車力屏風山牧野と牛潟団地。以前の「環境公共通信第29号・第33号」でも紹介しましたが、その頃はまだ工事が始まったばかり。あれからいろいろと工事を重ねて「牧場としての役割」を強化してきました。今回は、『これまでしてきたこと』と『これからしていくこと』について紹介していきます！

【まさ君】

おべ様、牧場づくりはどこまで進んでいるの？

【おべ様】

うん。まず、牛潟団地に新しく牧草地（2.9ヘクタール）を造ったよ。

屏風山牧野と合わせた牧草地の面積は87.8ヘクタール（なんと東京ドーム約18個分！）まで広がったんだ。

それから、牧草をたくさん生産するために必要ないろんな機械を整備したり、牛を管理するための追い込み施設を設置したよ。

そのおかげで、今までより放牧できる牛の数が増えたり、多くの乾草を生産できるようになったり、牛の健康管理がしやすくなったんだ。

【まさ君】

えへ～！それってつまりは『牛さんにとって心地良い牧場』に生まれ変わったってことだね！





◆新しく設置した追い込み施設（写真左：○内）。ここでは牛を集めることができるので、一斉に並べて（写真中央）、病気を予防するための薬を体にかけたり、病気になった牛の治療や採血（写真右）ができます。

求められているのは・・・「1年中、牛が飼える牧場」です！

【まさ君】

ねえ、おべ様。牧場づくりで「これまでしてきたこと」はだいたい分かったよ。けど、草はたくさんあるし、牛さんの健康管理もできる・・・これでもう十分な気がするんだけどな・・・。「これからしていくこと」って一体何？

【おべ様】

うん。実はこの牧場が目指している最終目標は、『1年中、牛が飼える牧場』なんだ。第33号でも紹介した「冬期預託施設（牛舎）」は、その最も中心になる建物でね、100頭のお母さん牛やお姉さん牛を飼うことができるんだ。これからは1年を通して安定して子牛が生産できるから楽しみだね。今ちょうど本格的な工事が始まったよ。

【まさ君】

他にはどんな建物をつくる予定なの？

【おべ様】

冬に牛舎にいる牛さんの御飯（＝牧草）を確保するために、たくさんの牧草を保管できる飼料貯蔵施設を作るよ。それから、忘れちゃいけないのが、牛さんの「うんち」や「おしっこ」を処理するための建物も作らないといけないんだ。

【まさ君】

牛さんは体が大きいから、たくさん「うんち」をしそうだなあ。どうやって処理するのか全く想像できないよ。

【おべ様】

お母さん牛たちは、毎日乾草を8kgと、とうもろこしなどが入った配合飼料を1kg、水を30lも飲んでいるから、だいたい「うんち」は18kg、「おしっこ」は7lもするんだ。牛のふん尿は、おがくずが混じった状態で牛舎からホイールローダーっていう大型機械でふん尿を処理する建物に運ばれて、半年くらいで「たいひ」が出来上がるよ。「たいひ」は栄養タップリだから、牧草を育てるための肥料に使われるよ。

【まさ君】

農家さんにとっても、牧場にとっても、そして牛さんにとってもいい話だね。まさにウインウイン+ウイン？な関係。今から完成が楽しみだよ！



【完成イメージ】「飼料貯蔵施設」



【完成イメージ】「たいひ処理施設」

